鶯を手柄を仕て千梅の花　伊鳰
雀らひし世しも安や春の月　蒼乱
鶯のあさ梅か春の木ミ寸哉　龍石
万葉や正月ゟ多謠よーして　亀丸
若菜鶴のきもかやちに見え　双魚
鶴のまふ蓬莱の春日哉　七夕千　柳至
ゆれ家の拍子ぬけする若哉　信ノ　巌松
春の丁寧や尽ふとも思ハぬに　白川　由人
春之月床し其の保山の雪　平柳　涼蛍
春の山きのふに八似然姿かな　荒川
初空に不二すこくと思ひけり　荒弘
梅好の窓に取てもさ八床す　奥州　梅賜
挑灯のうけおのらしおぼろ月　松戸　南陵
晴てもそに限なし鶯の声　菁蒙
淋しさや鶴か立つる沢の畑　不動坂　美中
元日や梅の条條の人心　柝賑
梟鍋の角折れるや梅の花　江戸　孤月
さ一夜福ふ来まさ今年哉　松社
ふり切て来てもえかへる柳かな　八汐女
梓ものうさしく柳も芽張りけり　子寅

以下上総の部

春の鶴りしく蘇も重しかさの春　大多キ　對堂
門松の雪も衣くえをやさかむ　小八て　器水
鳳凰の羽音をおすや初鳥　イハクぐ　吉砂
揚雲雀月の下にや戻りけり　百樹
蒼ひら咲く李白ら酒桜　オシヒ　東水
門松やせあるちらに夜の明る　林宇
古年のわすれ出し梅の花　東氣
白波の松も昔や春の月　益雄
春の来にみやとをつむや穀の下　大上　二三
人に度に心のきれる柳の芽　中条　涼亀
きし帰や窓をあけて冨士の山　スミラ　扇車
春雨や霞の取て…の桐　トミミ　素吟
むつまじき詞の花や松の声　フセ　金秋
咲て和てふる日八年の春の春　桂紫女
素夜来まて麻のおし性　玉宇
若菜の帰羊味も世の声　想容
出行ても出ても咲し春の旅　桂司
忘さやうに不二も鍋の春　鷺梘
小松咲人のまよくやうも日　秋寿
月ながめりてあらう九草哉　吉西

以筆中画之

蓬莱の年こそつたれ御光の龍　八大宿　亀七
年礼や孫の行儀を笑ひ　ワカ山　花習
能かけや湯屋娘の抱て茶　貴丸
昼よいうく星や四方拝　甚石
明渡る鳥の詞や大川舟　秀黎
弁る日の稲村雲や所の霞　アカヤ　斗行
若水に清くうつれや松の翠　東青
日の色のひかる嫁や福寿草　墨鶴
仮名書に和らく雪や初暦　仙李
いまつむや牛子遊ぎる簇も尺す　一匡
引かけて梅をちらす牛飼笄　ミヤマヘ　暉山
雪とけて雪のさわつく初日かな　山香
春雨やうらし鳥の嬉し顔限　永ヨシ　雄堯
春の来に家おろせても…雪　静寧
孫鳥のあさの不のめく東日哉　家丈
元日の心を亀角ありまれまし　ニノミヤ　梅和
鶯や主…敷のあけし根　里旭
大文字の衆の咲りやちら原　丸京
日のもとの初日うれしや九十九路　令酒
咲みちてうら表なし梅の花　砂旭
若水や前涯よなれし鶴の声　蒸渓
膝に添へてさげむら女の枝　万穀良
風毎に春の色ます遊山哉　凰亭
永発によく咲堂の眠りかな　晩山
梅か香や戸をあけ京はうへ出れ　ウスヰ　松林
若鶏の羽音ろし山気に　琉山
若かへる人のからろや四方の春　窓墨
梅白に東牛や雨の月の暈　夢庭
初空や鳥の声も初手　蕉林
表座千日の空梢蝶　七老里　双竜

尻むける風ス
鳥や初日の出　蓬菴　普陽

天保六未とし